

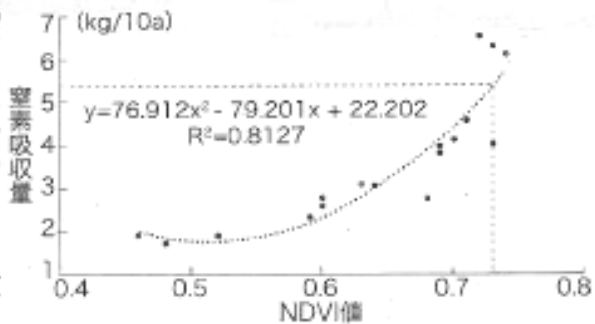
農業技術

プリズム

これまで、リモートセンシングを活用して水稲「なつほのか」の分施肥系での適正な生育量とNDVI値との関係を明らかにするとともに、そのときの窒素吸収量についても明らかにしました。しかしながら、元肥一発肥料では気象条件によっては肥効時期が変動し、その結果として生育不足時には穂肥の追加が必要になります。

そこで、元肥一発肥料施肥条件下で栽培した「なつほのか」の生育診断に基づいた追肥（穂肥）による収

元肥一発肥料使用時の水稲「なつほのか」収量安定化のためのNDVI値0.73で穂肥を



「なつほのか」のNDVI値と地上部窒素吸収量との関係量安定化を図るために、幼穂形成期の適正なNDVI値と窒素吸収量を明らかにしました。

その結果、元肥一発肥料

を施用した場合には、平方メートル当たりもみ数が適正値の上限である2万7000粒での幼穂形成期のNDVI値は0.73になります。また、その時の窒素吸収量は約5.4kg/10aであることが分かりました。

元肥一発肥料を用いても、幼穂形成期のNDVI値が適正値である0.73を下回り、生育量が不足する場合には、穂肥を施用することで増収することが確認できました。

今後は、幼穂形成期のNDVI値を計測することで肥料の適正量を求める研究を継続してまいります。

(長崎県農林技術開発センター 生部和宏)

NDVI値 正規化植生指数とも呼ばれ、植物が反射する近赤外線と赤色光の量の差を波長の特長を使って可視化することで、植物体の成長程度を画像で判断することができます。